

麻生副総理 冒頭ご挨拶（仮訳）

【G20「高齢化と金融包摂」ハイレベルシンポジウム（GPII フォーラム）】

2019年6月7日（金）9：00～9：10

於 ホテルニューオータニ 鳳凰の間

グリア OECD 事務総長、

ゲオルギエヴァ世界銀行 CEO、

スピーカーの皆様、

GPII 代表者の皆様、

ご来場の皆様、

おはようございます。

G20「高齢化と金融包摂」ハイレベルシンポジウム（GPII フォーラム）

へのご来場を心より歓迎いたします。

本年の日本は、G20 議長国として初めて、高齢化と政策対応をプライオリティとして設定し、議論を進めてまいりました。これは、日本が高齢化先進国であるからだけではなく、高齢化が世界で広がる共通の課題であるからでもあります。

医療技術の進展や公衆衛生の向上により、人々の寿命は伸びています。G20 については、世界の 60 歳以上の人口のうち 70%以上が G20 諸国にいるという統計もあります。さらに、国連の統計によれば、世界の 60 歳以上の人口は 2050 年には 20 億人を超え、そのうちの 80%

が低中所得国に集中すると推計されています。こうした統計は、高齢化が、途上国・新興国を含め、グローバルな現象であることをはっきりと示しています。

こうしたグローバルな視点に加え、高齢化は私たちひとりひとりにとっても重要な課題です。どこでどのように暮らしていようとも、認知・身体機能の低下は、誰もが経験しうるものです。これは、たとえ現在金融包摂されていたとしても、高齢になって金融排除を受けるリスクが誰しもあることを私たちに思い起こさせてくれます。

さらに、高齢者は、家族、住居、ジェンダー、所得、健康、その他の特性で多様です。この多様性と長寿化は、私たちが、資産寿命を延ばすために、若い時期から計画することが重要であることを示唆しています。したがって、生涯にわたるファイナンシャルプランニング、金融リテラシーの向上、認知機能・身体機能に応じた金融サービスの提供が一層重要になるでしょう。

金融包摂のためのグローバル・パートナーシップ（GPFI）では、高齢化が金融包摂に与える新たな課題や機会について、集中的に議論してきました。

その成果としてとりまとめられたのが、GPII と OECD は共同で「G20 福岡ポリシー・プライオリティ」です。この画期的な文書は、リテラシーの強化、フィナンシャルプランニングの支援、カスタマイゼーション等、高齢化の下で金融包摂を実現するために鍵となる8つのステップを定めています。

人口動態の状況に関わらず、こうしたステップは、高齢化に準備・対応し、安心・安全な形で、豊かな長寿を楽しむ上で、共通して重要です。

G20 福岡ポリシー・プライオリティを、確固たる出発点として、関係者間の連携とアクションが生まれることを強く期待しています。

本日のシンポジウムは、そうした取組みの1つです。政策立案者や国際機関を含む多様な視点から、示唆に富んだ議論が展開されます。こうした議論から、有益な発見が得られ、週末に福岡で開催されるG20 財務大臣・中央銀行総裁会議においても共有したいと思います。特に、今回のG20 財務大臣・中央銀行総裁会議においては、各国を人口動態別に3つのグループに分ける分科会形式を通じて、金融包摂を始めとする高齢化とその影響を議論する予定です。こうした工夫を凝らした方法によって、各国の大臣・中央銀行総裁の間で活発

な議論が展開され、将来に向け、お互いに学びあうことのできる機会となることを期待しています。

それでは、本日の議論が実りあるものになることをお祈りし、開会の挨拶とさせていただきます。ご清聴どうもありがとうございました。

(以 上)